

令和4年度 江戸川区立新田小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考える子 思いやりのある子 体を鍛える子 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子供の笑顔があふれる楽しい学校 ○教職員が育てることの喜びに満ちた学校 ○保護者、地域から信頼され愛される学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>○若手教員が多い中、校内研究や若手研修会の中で、主体的な学びや日々の児童の成長につながる実践を共有した。コロナ禍でも教員も自信をもって授業に取り組み、児童に寄り添う姿が見られた。 <課題>○若手教員、ミドルリーダーの育成と学校組織の活性化。 ○心身ともに健康で、学び合い、高め合うことができる児童の育成。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・補習日を年間36回実施する。eライブラリを活用し、振り返りをする。	・通知表における「よくできる」「できる」の評価を90%	A	B	引き続き、基礎基本を繰り返しながら学力の定着を図ることができた。	A	子供たちの成長もそれぞれなのでついていけない子供のための補習はよい。	基礎基本から応用の内容の充実と家庭との連携で学習の習慣化を図っていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・朝読書の充実と全学年が12時間の図書館を活用した授業を行う。	・休み時間等においても図書室を利用した調べ学習の時間が増える。 ・本の貸出冊数の10%増	A	A	朝読書が定着し、本に親しむことができてきた。それが、調べ学習などにつなげることができた。	A	ICT教育も重要だが、本を読むことも大切なのでよい取り組みである。 ・電子化が進む中、書籍に触れることはとてもよい。	他教科との連携も図りながら充実に努める。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・校内研究の体育「主体的・対話的で深い学びを目指す授業回線」を通しての体力の向上	・毎週金曜日朝の新田プレタイムや縦割り班遊びにおいて、様々な運動を体験する。	・1日に30分以上運動する児童90%	A	A	新田プレタイムでは、準備運動としてラジオ体操を取り入れるなど取組が充実してきた。	A	・体力のない子供がふえているので少しでも運動して体を強くしてほしい。	これからも児童の実態に即した運動を取り入れ、体力向上につなげていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・児童が生きた英語に触れ、楽しみながら学習意欲が高められるように授業を行う。	・児童同士のコミュニケーションを増やし、外国語の授業が好きな児童80%	A	B	これからも学習意欲が高められるように、コミュニケーションの活動の工夫をしていく。	A	・これからの時代英語はマストだと思うので、もっと力を入れてほしい。	意欲関心が高められるように、引き続き工夫した活動になるように取り組む
	教科担任制の導入	・高学年において、教科担任制を導入することで学力の向上、小中の連携につなげる。	・主体的に取り組み、学びを深める授業改善に取り組み、学力の向上を目指す	・複数の教員がかかわることで授業が楽しいと答える児童90%	A	A	教員の専門性を高めることにつながった。児童を複数の教員で担当することで、児童理解に努めながら授業改善に取り組んできた。	A	・素晴らしい取り組みである。	授業改善と学力向上につながるように取り組んでいく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・支援計画に基づいて、指導の見直しや改善に努めている。	・月一回行う校内支援委員会で改善を図る。 ・学期に1回、研修を実施する。また若手研修も実施し、若手教員の理解を深める。	A	A	配慮を要する児童について、全教職員と共通理解をしながら、指導にあたることができた。若手教員が特別支援教育に対する理解を深めてきている。	A	・うみかぜ学級の授業を参観したが先生、介助員、児童の信頼関係がよいと感じた。これからもその関係を深めてほしい。	交流学習を含め、配慮を要する児童についての対応について全教職員と共有しながら充実させていく。
	子供たちの健全育成	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルトレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめ・不登校についての授業を毎学期1回以上行う。 ・毎週金曜日に行う生活指導夕会で情報交換と共有を行う。	・学校が楽しい、何かあった時に相談できる人がいる児童90%	A	A	生活指導夕会を週初めの火曜日に変更したことで全教職員で指導の変容を確認することができるようになった。これからも未然に防ぐことができるように努めていく。	A	・昔のいじめとは違い、今はSNS上でのいじめが心配である。	ハイパーQRや学期ごとの生活アンケートを活用しながら友達関係を築き、未然防止に努める。いじめを発見した場合は、迅速に組織的に対応できるように努める。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・授業でのタブレットの利用について、各学年だけでなく全体で共有する。 ・各教科、各学年で使用例を引継ぐ。	・夕会等の後に情報共有する時間を設ける。 ・学期に一回、ICT支援員による研修を実施する。	A	A	研修を確実に実施してきたことで、授業の中で活用することができ、資質向上につながった。	A	・タブレットを利用、活用することにより時間を有効に使うことができるとうい。	授業で活用できる方法を実践、共有しながら、互いに向上できるに努める。
	特色ある教育の展開	一人1台のタブレット端末の活用を通して	・校内研究の体育科を通して、タブレットでの学習履歴を保護者と共有することで、体力の向上、運動への関心意欲を高める。	・定期的、ポートフォリオ(動画の履歴)を家庭に持ち帰り、児童と共有する。 ・地域の方にも公開し、理解を深める。	A	A	学習履歴を活用しながら、体力の向上、運動への関心につなげることができた。	A	・子供たちのプレゼンテーション能力が身に付くよい取り組み	児童の学びを学校、保護者、地域とともに考える機会を定期的に設けコミュニティの中で共に理解を深めていくようにする。
	共生社会に向けた基盤づくり	・校歌の手話を通して、共生社会の基盤づくりに取り組む。そのために、SDGsの取り組み目標を毎月推進していく。	・SDGsについて、児童会活動を生かして、推進していく。	・進んで、取り組み目標に「ついて、実践できる児童80%	A	A	SDGsのシンボルマークを区に承認していただき、本校独自のポスターを作成し、全学年で推進することができた。	A	・これからもSDGsの必要性和重要性を学んでほしい。	昨年度の周年のキャラクターを区のデザインに活用したので、児童の活動に広げ実践に努める